

令和7年度 宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校（全日制） 【自己評価及び学校関係者評価】

《 4段階評価 4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する 》

教育目標		1 知徳体の調和のとれた人材の育成を目指す。 2 校訓「正義」「寛容」「実行」を具現化し、21世紀を担う人材の育成を目指す。		計画(Plan)		実行(Do)		評価(Check)		改善(Action)		学校関係者評価	
重点目標	担当	評価項目	重点努力目標（評価指標）		方策・手立て（数値目標）	学校自己評価	総合	結果と考察・改善		評価	評価コメント（評価できる点、改善してほしい点）		
① 真の生徒一人一人の力を最大限に伸ばし、現役合格にとらわれ	教務部	基礎・基本の定着と学力向上	① 面白くてためになると生徒が感じる探究型授業の構築と学びに向かう姿勢の確立【リサーチ・シンキング】	(ア) 基礎学力の向上（個別最適な学びの研究） (イ) 3年間を通じた学習の流れの確立 (ウ) 探究型授業の研究	3.0	3.3	基礎学力の向上に向けては、定期テスト前の範囲表の配布や考査前指導により、個別に指導できる体制を取った。3年間を通じた学習の流れについては、自走化に向けた流れについての生徒教員を含めた共通理解が不十分な状態である。1年・2年・3年の学習について教員間の共通理解を持って、指導に望んでいく方向で進めている。 授業改革推進委員会を中心に、探究型授業の研究を進めてもらっている。教科代表者会を通して、可能な限り研究授業などへの参加を促している。毎回、参加者も多く、校内の意識向上につながっている。生徒の状況も踏まえて、新しい視点をもって授業を改善していく必要がある。私たち教員自身が柔軟に指導方法を変えていく必要があるため、研修会なども定期的に実施して意識向上に努めていく。 グループウェアのミラタイムを活用して、日々の日程や必要事項の連絡、会議の資料のデータ化に努めてきた。先生方や生徒・保護者の共通理解に向けては、学校通信「We are 都城泉ヶ丘」を作成し配布した。データ化したものをclassiで流していただくなど工夫した。生徒情報の更新については、その都度確認・更新を行っていく必要がある。	3.0	基礎学力の向上に向けては、定期テスト前の範囲表の配布や考査前指導により、個別に指導できる体制を取った。3年間を通じた学習の流れについては、自走化に向けた流れについての生徒教員を含めた共通理解が不十分な状態である。1年・2年・3年の学習について教員間の共通理解を持って、指導に望んでいく方向で進めている。 授業改革推進委員会を中心に、探究型授業の研究を進めてもらっている。教科代表者会を通して、可能な限り研究授業などへの参加を促している。毎回、参加者も多く、校内の意識向上につながっている。生徒の状況も踏まえて、新しい視点をもって授業を改善していく必要がある。私たち教員自身が柔軟に指導方法を変えていく必要があるため、研修会なども定期的に実施して意識向上に努めていく。 グループウェアのミラタイムを活用して、日々の日程や必要事項の連絡、会議の資料のデータ化に努めてきた。先生方や生徒・保護者の共通理解に向けては、学校通信「We are 都城泉ヶ丘」を作成し配布した。データ化したものをclassiで流していただくなど工夫した。生徒情報の更新については、その都度確認・更新を行っていく必要がある。	3.3	・進学率が向上した。 ・転動してきた先生方への共通理解が必要である。 ・研究授業の成果が日常の授業にどの程度還元されているかを確認する必要がある。 ・成果を客観的データで示し、学年・教科間での実践共有を進めてほしい。		
			② 指導力向上への支援【リサーチ】	(ア) 3年間及び6年間を見通した指導スタイルの工夫と改善 (イ) 他の分掌との連携による研究授業・授業公開の工夫・改善 (ウ) ICTの活用を含んだ授業研究と教科研修会の充実 (エ) 自立した学習者の育成や教師の指導改善につながる授業評価の工夫と改善	3.0								
			③ 情報発信（校内向け）・情報管理【コミュニケーション】	(ア) グループウェアを活用による共通理解とペーパーレス化の実現 (イ) 学校のニーズに応じた効率的なデータ整理と校内での情報共有 (ウ) 校務支援システムの運用と活用による生徒情報等のデータ処理の推進 (エ) 地域や中学校、学習塾との連携	4.0								
			④ 分掌内や関係分掌との連携【チームワーク】	(ア) 他分掌との連携・分担による働き方改革とチーム学校の強化 (イ) 附属中学校、定時制との連携を深め、一つの学校としての一体的な体制構築 (ウ) 分掌内での適正な分担による個人の負担軽減	3.0								
② 現役合格にとらわれ	進路支援部	進路支援の充実	① 進路意識の高揚【リサーチ・シンキング・コミュニケーション】	(ア) 進路実現のために模試や検定等への挑戦を支援する (イ) 職業観、人生観を構築していく支援をする中で「探究心」や「レジリエンス」の涵養を図る	4.0	4.0	・模試の実施形態の改善や、実施前の保護者への連絡等、生徒目線で模試を活用しやすい環境を作った。 ・職業業講座、大学出前講座を通じて、人生観の深化を促すことができた。 ・進路通信を通じて、タイミングの良い情報発信に努めた。 ・中学生への進路意識を機も、少しずつ増やしている。	3.7	・頑張っている生徒を伸ばす課外のあり方を考える必要がある。 ・難関大学だけでなく、多様な進路へのきめ細かい対応を期待する。 ・教材や課外指導の刷新は成果が期待できる。今後利用状況や満足度の検証が必要である。 ・中高連携はスムーズにしている。 ・中高6年間の過ごし方がよくなってきている。 ・生徒目線、生徒第一の考え方で対応されている点が評価できる。 ・家庭・地域との連携は評価できる。今後ICTを活用した情報共有のさらなる充実を期待する。				
			② 進路指導計画【マネジメント・シンキング・チームワーク】	(ア) 3年間、および中高6年間を見通した進路支援計画を策定する (イ) 難関大、学部を志望する生徒の支援を実践する (ウ) 高大接続に伴う入試制度改革に対応した進路支援を計画・実践する	4.0								
			③ 学習環境の整備【リサーチ・マネジメント】	(ア) 本校にある大学入試課題等を、生徒が利用できる環境を整備する (イ) 課外指導を充実させる	4.0								
② 自尊心と人権感覚を養い、いじめ防止	教育支援部	規範意識の向上と生徒支援の充実	① 人権意識の高揚と自己肯定感の醸成【シンキング・コミュニケーション・チームワーク】	(ア) 相談業務の充実と適切な生徒支援 (イ) FITS、人権学習、情報モラル教育の計画的な実施 (ウ) いじめの未然防止・早期発見（面談、アンケート、SC・SSWの活用） (エ) 教育相談通信による相談窓口の周知・生徒支援部通信発行による情報発信 (オ) 職員研修の実施（生徒理解、対処法等研修）	3.0	3.0	相談業務については、学級担任や養護教諭と連携しながら、支援が必要な生徒・保護者に対応した。今年度は、SCやSSWの来校時間が拡充されたため、専門的な知見から様々な悩みを抱える生徒・保護者の支援に昨年度よりも多く繋げられた。また、いじめに関するアンケートを定期的に実施し、校内委員会で対応を協議しながら職員間で共通理解を図り、対応した。但し、アンケートだけではいじめの実態のすべてを把握することは難しいので、今後も日々から生徒をよく観察していくことが必要である。各学年の人権学習については、人間関係をより円滑にし、自他共に大切にできる活動を取り入れ、生徒一人ひとりの人権意識の向上を図った。また、生徒理解のための職員研修（講師：本校SC）を8月に実施した。	3.3	・課外授業での生徒の意欲を先生方がくみ取り指導している点が良い。 ・カリキュラムの方向性が素晴らしい。 ・生徒間の人間関係や安全への配慮がなされている。				
			② 規範意識の育成【マネジメント】	(ア) 職員の共通理解と組織的な実践 (イ) 交通安全の意識向上（自転車安全利用5則の啓発）	3.0								
			③ 情報の共有化と連携の強化【リサーチ・シンキング・チームワーク】	(ア) 学校と家庭、地域・関係機関との連携・協働 (イ) 附属中学校との連携を密にし6年間を見据えた生徒支援の構築	3.0								
③ 活動にも力を入れてきた	生徒支援部	文武運動の推進	① 自治活動（生徒会、ボランティア等）の推進【マネジメント・チームワーク・レジリエンス】	(ア) 生徒会総務及び各種委員会の活性化（自走する集団の育成） (イ) 生徒会行事の充実（各種実行委員会の活性化）	3.0	3.4	○生徒会総務自身が、学校公式Instagram開設・運用や校内弁当販売等の具現化を通して自治的な活動の推進ができた。 ○特に都泉祭（文化の部）では、都泉祭実行委員会が組織的・計画的・継続的に企画・運営に取り組み行事の成功を収めた。 ○練習時間や施設、予算等に限られる中で、効果的で効率の良い活動を実践し、文化部運動部とも九州大会・全国大会を果たした。 ○部員・部顧問に部活動アンケートを実施し、課題の早期発見・早期対策に取り組んでいる。	3.3	・学校公式Instagramの充実を図る必要がある。 ・部活動参加率が80パーセントは心身共に健康であり素晴らしい。 ・部活動の活性化が図られている。 ・自治活動、部活動、科学的探究活動等が学習面や学校改善にどのように波及しているかを明確にしてほしい。 ・各種オリンピック等への挑戦は大きく評価できる。今後さらに参加層が拡大することを期待する。				
			② 部活動の活性化【マネジメント・チームワーク・レジリエンス】	(ア) PDCAに基づいた部長・キャプテン集会（各学期2回程度）と部活動アンケートの実施 (イ) 計画的な休養日（週あたり平日1日、休日1日、年間100日以上）の設定	4.0								
			③ 科学的探究活動の活性化【マネジメント・チームワーク・レジリエンス】	(ア) 地学を含む自然科学部の活動促進 (イ) SSHとの連携 (ウ) 放課後ラボの活用促進	4.0								
④ 本校の魅力を開発し、その発信と広報活動を充実させる	SSH推進部	学校デザインの継続的検討	① カリキュラム・マネジメント 生徒・教職員にとってよりよい教育環境の整備	(ア) 機能的なカリキュラム・マネジメントの実施（職員アンケート） (イ) 生徒の伸長を図るための教育課程の実施（生徒アンケート） ※外部テスト（河合塾「学びみらいPASS」）の効果的な活用	3.0	2.7	(ア)教育課程に関するアンケート結果は、各項目とも安定的に高い、10項目中9項目は90%以上と高い。次年度完成年度を迎え、初の卒業生も輩出するため、その時の実績等で判断したい。 (イ)例年と比べ、1年次から2年次にかけての上昇率がアップしている。2→3年次の上昇率は例年並みに上昇。  (ア)本校独自の設定科目なので比較はできないが、探究・研究に関する生徒の満足度は高い数値を得ている。普通科校外での活動や統計を活用し分析する班が前年度と比べ大幅に増加している。  (ア)参加生徒の満足度は高い。組織、取組はしっかりしている。さらなる独自性が今後望まれる。 (イ)各種コンクール・コンテストへの参加人数は昨年度と比べ激増している。天文学オリンピック決勝進出者は初めて輩出できた。今後頂上に立つ生徒が出てくれることを期待する。 (ウ)宮崎大学と連携した実験教室への満足度は高い。また今年度より実施した理科2年実験合宿は、九大をはじめとする4大学の協力により、質・量ともに充実した合宿を送ることができた。  (ア)教員による「授業改革PT」を始動したことで、授業改善の意識は全体的に上がり、研究授業参加率は毎回高い。より効果的に知識技能を習得し、かつ生徒の思考力・表現力をアップするための単元計画がなされるようになってきた。  (ア)月1回発行のSSH通信は保護者、近隣中学校へも発信している。HPの中身の充実が次年度に向けた課題と捉えている。  (ア)環境整備にSSH予算を活用できない中、より効果的な活用ができるよう方法を模索中。財源確保が難しい領域。	3.3	・各分野で連携し、生徒とのつながりを強くしてほしい。 ・泉ヶ丘の独自性・ブランド力の確立、向上をさらに進める必要がある。 ・SSHで生徒の体験中心に予算が組まれている点は評価できる。 ・先生方が努力され、生徒が結果を出し始めているようで嬉しい。 ・探究成果の外部発信をさらに強化して、泉ヶ丘の独自性を明確化し、ブランド力向上につなげてほしい。 ・設備更新は優先順位を明確化し計画的に進める必要がある。 ・大学の施設を有効利用する方法もある。 ・志願倍率は維持しているが、少子化を見据えた戦略的広報が不可欠である。				
			② 科学的探究活動の充実 学校設定科目の効果的な運用	(ア) 理数科SSH学校設定科目の計画・運営・評価（生徒アンケート） (イ) 普通科「理科探究（基礎）」の計画・運営・評価（同上）	3.0								
			③ 科学技術人材育成プログラム 教育課程外の科学技術人材育成プログラム	(ア) 理系女子研究者育成プログラム「泉“のりこ”」企画・運営・評価（事後アンケート） (イ) 科学系部活動「自然科学部」の活性化（部員数調査・大会参加者数調査） (ウ) 外部機関を活用した実験教室や講義研修等の企画・運営・評価（事後アンケート）	3.0								
			④ 授業改革の推進 新時代に対応した本校独自の授業改革	(ア) 研究授業による授業力向上の取組充実（生徒・職員アンケート・各種模試分析） (イ) 教科横断的・探究的授業・ICT活用授業の推進（職員・生徒アンケート）	3.0								
			⑤ 普及・発信 SSHを基軸とした学校の魅力発信	(ア) 学校ホームページ・SSH通信を活用した各種活動の情報発信（HP閲覧者数 等）	2.0								
			⑥ 環境整備	(ア) 図書館・理科実験室等の充実及び効果的利用の検討（生徒・職員アンケート）	2.0								
			⑦ 情報発信（校外向け）【マネジメント・リサーチ・コミュニケーション】	(ア) 一般入試倍率1.1倍以上を目指す (イ) 生徒広報委員によるオープンスクールの企画・運営 (ウ) 学校公開日の設定と案内 (エ) 管内中学校・学習塾との連携及び各種説明会の充実 (オ) SNS（Instagram）のアカウント新設と充実	3.0								